

磐城時報

日七十月
刊
福島縣石城郡平町岩崎町
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町岩崎町
發行所 磐城時報社
一部金貳圓 一月金拾圓
廣告料 行字詰金五十圓
日刊日曜祝祭日 翌日休刊

今曉内郷村の大山崩れ

轟然・五棟を押し潰し 一家六名が下敷

幸ひ附近民の救出早く
奇蹟的に微傷だに免る

十七日午前二時ころ内郷村大字板宮澤四一農山崎美隆方裏山約一町歩が突如轟然たる大音響ととも崩壊約三丈余を地入りして山崎方母屋と土蔵、便所、厩小屋計四棟を押し潰し一家六名を下敷にした勢を以て、更に隣家の齋藤鶴吉氏が飛び出してこの惨憺たる被害に仰天、直ちに附近民を叩き起して廻り、駆つけた数名の者と協力漸やく失神状態にある山崎美隆(五三)祖母みき(七三)妻つね(五五)嫁まる(二二)五男通(七)孫八重子(三)を救出したがまるさんが出される際に頭部に擦過傷を負つたのみで他は奇蹟的にも微傷だに負はなかつた、目下同村消防組員が總出動復舊作業に奉仕する一方焚出しをして被害者を慰問しめるが流言亂れ飛び付近民は今なほ恐怖にかられてゐる。

地下探堀と大雪

地盤が緩んだか

不吉な前兆・井戸水の變色
慘憺たるその光影

別項——山崩れのあつた地盤は知れぬ大自然の暴威を物語るか縦地内國道筋南側に突き出た丘の如く慘憺たる光景を呈し、被陵の末端に當り同地方の井戸水害家は原形をどめぬまでに長男幸一(三三)が島田病院に入院してゐたのは何より幸ひでし、私達の身代りになつて牝馬ついでに、滅茶々になつてゐるので手の中から幽かに答へがあるのでは大

女給前借踏倒し

情夫と共謀か

平町田町カフエー桃の井金濱常尾方女給長谷川トシ子(二四)は十三日午後二時半ころ主人の不在を奇貨とし入浴に行くと同僚に云ひ残し前借五十六圓踏倒して逃走した
同人は若手縣柴沼郡赤石村字櫻町生れ去月廿七日塩釜町某カフエーから鞍替えしたばかりで来た平署の鑑札もなくその手續中に姿を晦ましたので石巻市殺町櫻井ヨコ方に情夫小瀧功と同棲してゐたこともあり或は情夫と共謀の前借詐欺ではないかと平署で手配中。

警部補の妻の第六感

見事！スリ犯を捕ふ

平館の映畫見物中の騒ぎ

小川村字紫原花田トメ(二二)郷村國道を疾走中誤つて同所を平町安齋外科醫院に入院中十五日夜同院看護婦等と連立つて平館一等席で映畫見物中、懐中にある現金八圓九十錢在中の蓋口を何者かにスリ取られて大騒ぎとなつたが丁度その傍らで見つてゐた平署特高主任警部補長澤代瀨氏夫人の隣席にゐた才位の眉間に傷のある男が最前から舉動不審で續け様に二回も便所に行つたこと等を思ひ合せて流石は警察官の妻だけに第六感を働かせた長澤夫人が平署から駆け付けた熊田、鈴木、兩特高刑事に耳打ちしたので大膽にも裕々兩刑事の傍らを通つて歸らんとした前記不審男を難なく逮捕本署に引致した。

社金二千圓を拐帶

連夜豪遊を續く

女給のチツプに百五十圓の札束
堀江工業の會計係御用

平町八幡小路居住堀江工業會社つた會計係佐藤子(二五)は去る七日社金二千圓を銀行に拂込みに行く途中生れて始めて持つた大金に悪心を起しカフエーパツカスに飛込んで、豪遊「それチツプだよ」と百五十圓の札束を投げ與へていゝ氣持になり余勢をかつて新田町某料亭に登樓藝妓二名を揚げて遊興その夜のうちに藝者を同伴東京へ逃走翌日(三〇)高橋源一(四一)神田照雄は藝者二人に東京見物をさせた上歸しその夜から吉原遊廓に潜り込み大盡氣取りで豪遊を續けてゐるうち余りに亂暴な金費ひに不審を抱いた日本堤署員が十五日朝検舉した旨平署に通報あ

坑夫の賭博

十六日午後二時ころ内郷村大字高坂御殿探炭夫金野賢次郎(三三)一方で同人外同僚の古今朝治(三〇)高橋源一(四一)神田照雄



夫夫生きてゐるなど元氣を出し治方で十六日午後八時半ころ同で木材や、壁板を叩き壊して眞字漁夫矢津田功(六五)志賀勇治(五五)齋藤俊次(四七)滯行商立川鶴吉(四五)同町字寺脇漁夫後藤寅吉(四七)二平庄治郎(六〇)の六名が車座となり花札十丹賭博開張中を平署小名濱駐在所員に踏込まれ一網打盡に檢舉され

二百圓踏倒し 内郷村宮前借詐欺告訴 料理店藤沼まつの方抱的婦千葉市寒川八吉長女柳田吉子(二四)は昨年十二日前借三百圓で住込んだが郷里の父が金策に迫られて前借詐欺を企て娘を他に住替えさせんとして「チキチク」の偽電報を主家に打つたところ何も知らぬ娘は吃驚抱へ主と一緒に歸宅したので逆に父がビツクリその場は胡魔化して抱主を歸し言を左右に娘を歸さぬので十四日まつのから平署に前借詐欺の告訴

小沼ヤエ子(四四)倉町小沼光造氏母堂ヤエ子は十一日永眠した、行年八十二、光造氏は遺志に依り同町内仲須賀青年團の基本金として金五圓を寄附した。

平署員に殊戮つなど。

